

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじん にほんせんちゅりーこうきょうがくだん 公益財団法人 日本センチュリー交響楽団	団体ウェブサイトURL https://jcsso.or.jp/	
代表者職・氏名	理事長 桜井 博志		
制作団体所在地	〒 561-0885	最寄り駅(バス停)	阪急電鉄 岡町駅
	大阪府豊中市岡町1-1 きたしん豊中ビル6階		
電話番号	06-6848-3333		
ふりがな 公演団体名	にほんせんちゅりーこうきょうがくだん 日本センチュリー交響楽団	団体ウェブサイトURL https://jcsso.or.jp/	
代表者職・氏名	事務局長 河村 一政		
公演団体所在地	〒 561-0873	最寄り駅(バス停)	北大阪急行 緑地公園駅
	大阪府豊中市服部緑地1-7		
制作団体 設立年月	1989年5月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長:桜井 博志 専務理事:小田 弦也 他 理事、評議員、監事	楽団員 2管10型(定員55名) 事務局員 18名 加入条件 楽団員はオーディションにより採用	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	西岡 千博・澤木 仁美
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	畔永 良平

本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	kuronagar@century-orchestra.jp fukushimam@century-orchestra.jp
-------------------------	---

制作団体沿革	<p>大阪府のオーケストラとして1989年に発足し、府民からの公募で大阪センチュリー交響楽団と命名された。2011年に公益財団法人日本センチュリー交響楽団として大阪府から独立し、大阪府・豊中市を拠点として活動。2024年12月には楽団創立35周年を迎える。</p> <p>現在、首席指揮者を飯森範親、ミュージックアドバイザーを秋山和慶、首席客演指揮者を久石譲が務め、ザ・シンフォニーホールで開催する定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」に加えて、豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズと、大阪府下2拠点で定期的な演奏会を開催。2度にわたり大阪府文化祭奨励賞を受賞する(2015年度、2018年度)など、その高水準な演奏は高い評価を得ている。</p> <p>その他、クラシック以外のアーティスト等とのコラボレーションなどジャンルの枠にとらわれない演奏活動も積極的に行っている。</p> <p>また、オーケストラ体感コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」、特別支援学校コンサート、ユースオーケストラの運営といった教育プログラム、「豊中まちなかクラシック」(豊中市)、「ルシオール街かどコンサート」(滋賀県守山市)等の地域連携事業にも力を入れている。</p> <p>「優れた演奏により地域の力を発信する」「オーケストラによる感動と癒しを提供する」「優れた才能を発掘し次世代の育成に寄与する」「国際相互理解や平和に積極的に貢献する」の4つの理念のもとに、本拠地・豊中市から国内外を問わず多くの人々の心に明るく夢が広がることを願い、活動している。</p>	
学校等における公演実績	<p>【自主事業「Touch The Orchestra」】 2003年度より、当団練習場であるセンチュリー・オーケストラハウスを会場とした体験型コンサートを開催しています。小学校高学年を対象に、楽器体験や指揮者体験、オーケストラの演奏エリア内での鑑賞など、観て・聴いて・触って体感するコンサートを実施し、延べ4万名の児童生徒たちが参加しています。</p> <p>【豊中市との連携事業「ホールでオーケストラ♪」】 2018年度以降、豊中市との連携により豊中市立の中学校を対象とした合同鑑賞会を継続して開催しています。毎年10校以上の学校にご参加いただき、毎年3～5公演ほど実施しています。児童生徒たちの地元の音楽ホールで、地元のオーケストラに触れていただく機会を提供し、2021年度より小学生を対象とした合同鑑賞会も開催しています。</p> <p>【大阪市北区との連携事業】 毎年夏の時期に、区内中学校の吹奏楽部・音楽部を対象とした演奏指導を行うと共に、「北区子供たちの夢づくり事業」として中学校や小学校の合同鑑賞会を開催しています。</p> <p>その他、府内学校の依頼によるオーケストラコンサートや室内楽コンサート、青少年向けコンサートを実施しており、2023年度は約20公演を予定しています。</p>	
特別支援学校等における公演実績	<p>以下の事業は、当団の社会貢献事業の一環として、2004年度より継続的に開催しています。参加費を徴収しない招待公演の形を取っており、プロ・オーケストラの生演奏に触れることができる貴重な機会として、児童生徒・教員・保護者の方々から大変ご好評をいただいております。</p> <p>【特別支援学校 オーケストラコンサート】 府内特別支援学校の児童生徒を対象としたオーケストラコンサートを年1回開催し、毎年900～1,000人の児童生徒・教員の皆様にご参加いただいております。完全バリアフリーの会場(国際障害者交流センター ビッグ・アイ)を使用し、車椅子やベッドを使用する児童生徒たちも心置きなくコンサートを楽しめる環境づくりを心がけています。2019年度より、文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」に5年連続で採択されています。</p> <p>【特別支援学校 アンサンブルコンサート】 文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」の採択内容の一部として、上記オーケストラコンサートへの来場が難しい学校や生徒を対象にアンサンブルコンサートを実施しています。毎年5校にお伺いし、各校の児童生徒のペースに合わせた内容をお届けしています。</p>	
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=9FFWvZJUMoE
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: 不要 PW: 不要

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 日本センチュリー交響楽団 】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	日本センチュリー交響楽団の「心をつなごう！オーケストラ♪」				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	【小学校プログラム】 ●グリンカ:歌劇「ルスランとリュドミラ」より序曲 ●楽器紹介コーナー ●各校校歌 ●《あなたも舞台に！》J.シュトラウスⅡ世:ポルカ・シュネル「雷鳴と電光」 ●三村総撤編:手拍子協奏曲「Clip! Beat! Clap!2」 ●徳山美奈子:大阪素描より 祭 ●ビゼー:歌劇「カルメン」よりアラゴネーズ、間奏曲、ジプシーの踊り (Enc.)ドヴォルザーク:スラヴ舞曲 第1番		【中学校プログラム】 ●グリンカ:歌劇「ルスランとリュドミラ」より序曲 ●楽器紹介コーナー ●チャイコフスキー:バレエ音楽「くるみ割り人形」より花のワルツ ●選択制プログラム(以下のうち、いずれか1曲を選択) ・吹奏楽部との共演 ①ヴァンデルロースト:アルセナール/②真島敏夫編:宝島 ・合唱共演 ①翼をください/②花は咲く/③ふるさと ●徳山美奈子:大阪素描より 祭 ●指揮者体験(体験者2名) ブラームス:ハンガリー舞曲 第5番 ●グリーク:「ペール・ギュント」より朝 ●シベリウス:交響詩「フィンランディア」 (Enc.)各校校歌		
		公演時間 90 分			
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	公演が進むにつれ作品の難易度を徐々に上がるように組んでおり、児童生徒たちの音楽鑑賞能力を自然と高められるように選曲しています。子供たちの成長過程に見合う公演とするために小学校プログラムと中学校プログラムをそれぞれ組んでおり、ワークショップとの関連性や、メイン曲に向けて音楽への理解が深まっていくような構成を意識しています。また、各曲の作曲家の故郷や作品の性格は全て異なっています。それぞれの相違点や共通点を感じ取りながら子供たちの感性を働かせ、音楽への理解や親しみを深めていただきたいと思います。				
演目選択理由	児童生徒たちにとって無理のないオーケストラ体験となるように、且つ当団の規模感で存分にオーケストラサウンドを体感していただける作品を選曲しています。オーケストラに初めて触れる子供たちも親しみやすいメロディー、プロ・オーケストラだからこそ届けられる芸術性に富んだ曲調、様々なジャンルの音楽を取り入れた構成を意識しながら、子供たちの音楽鑑賞能力を段階的に自然と向上させられる選曲となっています。また、鑑賞する時間・解説を聞く時間・コンサートに参加する時間を偏りなく構成することで、公演全体のリズムを作り、子供たちの集中力が途切れることなく、最後まで楽しめる流れを作ることも重要視しています。				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	新たな試みとして小学校公演にて『あなたも舞台に！《ビゼー:「アルルの女」よりファランドール》』を行います。子供たちがオーケストラの演奏エリア内に入り、オーケストラを間近で体感していただける演目となっています。スペースの都合により上限30名程度を予定しています。楽器紹介で見て・聴いて・知ったお気に入りの楽器の近くへ座っていただき、演奏者の表情や演奏テクニックなども観察しながら、迫力のオーケストラサウンドを体験していただきます。 例年取り入れている手拍子共演、合唱共演、吹奏楽共演、指揮者体験、校歌(オーケストラ版)のプレゼントも引き続き実施いたします。				
出演者	指揮:佐々木 新平 管弦楽:日本センチュリー交響楽団(2管10型)				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 60 名	運搬		積載量: 4 t	
	スタッフ: 6 名			車長: 8 m	
	合計: 66 名			台数: 2 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間			時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時	13時30分～15時	15分	15時～16時30分	16時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
		4日		8日	3日	
	11月	12月	1月	計	19日	
			4日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	～1,000名(体育館のサイズ、共演演目による)
		鑑賞人数目安	～1,000名(体育館のサイズによる)

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



会場の全体写真(2023年6月公演の様子)

舞台から縦9m、横幅すべての範囲を使用し、オーケストラをセッティングします。舞台のサイドに設置している黒屏風は、舞台袖を作る役割の他、楽器ケース等の備品が子供たちの集中力を削がないための目隠しとして持ち込んでいます。



公演中の様子①

楽団より平台と箱馬を持ち込み、舞台下にひな壇を作成します。ひな壇上は、木管楽器とホルンが並びます。舞台上には、ホルンを除く金管楽器と打楽器(ティンパニ)が一列で並びます。後方の児童生徒たちにも、後列の楽器までよく見ていただけるように工夫しています。



公演中の様子②(小学校プログラム/2023年9月公演の様子)

手拍子協奏曲「Clip! Beat! Clap! 2」の様子。打楽器奏者が手拍子のナビゲーターとなることで、子供たちとの共演を更に楽しく盛り上げ、オーケストラをより身近に感じていただけます。



公演中の様子③(中学校プログラム)

吹奏楽共演の様子。ワークショップでは事前指導を行い、本公演ではオーケストラの中に入って同じパートの楽団員の隣で演奏します。



公演イメージ「あなたも舞台に！」

児童生徒30名を上限に、演奏エリア内で迫力のあるオーケストラサウンドを体感していただけます。客席との響きの違いや演奏者の表情など、様々な視点からオーケストラの魅力を発見していただけます。

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～1,000名(実施会場のサイズによる)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>演奏・司会進行・指導は楽団員4名が行い、90分(途中休憩含む)のプログラムを基本としています。公演時間については、学校の希望に応じて60分や45分などのアレンジも可能です。</p> <p>【基本プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オーケストラを構成する楽器について 各ワークショップに来ている楽器の音色を聴いたり、それ以外のオーケストラの楽器について構造やオーケストラでの役割について、丁寧に解説します。 ●音楽の発展、音楽を構成する要素について 音楽にはどのようなジャンルがあり、どのような発展を遂げてきたかを、実演を交えながら歴史を辿っていきます。また、音楽の三要素であるリズム・メロディ・ハーモニーが持つ役割を学び、音楽の仕組みについて多面的に聴き取ることができるような実験を行います。 ●コンサートの楽しみ方について 拍手や「ブラボー！」の掛け声など聴衆の表現方法を学びながら、演奏者とのコミュニケーションの取り方を体験します。 ●指揮者体験コーナー 指揮者の役割について学びながら、代表生徒2名に指揮を振っていただきます。ワークショップ講師のメンバーが指揮レクチャーと演奏を行います。 ●ボイス・アンサンブル「やさいのきもち」 講師とともに、野菜の名前を使ったリズムアンサンブルを通して、誰かと一緒に演奏すること、互いの音を聴き合い音楽を作り上げることを体験していただきます。個々の役割を持ちながら、他者と協働して一つの大きな成果を生み出す楽しさを実感していただける内容となっています。 <p>【中学校プログラム】 上記基本プログラムの他、中学校では、本公演での共演曲の事前練習、事前指導を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●合唱共演の練習 合唱共演を希望する学校では、上記基本プログラムに加え、実際に本公演で歌唱する曲の練習を行います。ワークショップ時は各校の音楽教員の方にピアノ伴奏をお願いし、オーケストラと共演する際のポイントや音楽のアプローチなど、本公演に向けた事前指導を講師が行います。 ●吹奏楽共演の練習およびミニコンサート 吹奏楽共演を希望する学校では、講師の指導により本公演で共演する曲のセクション練習と合奏練習を行い、ワークショップの最後では講師によるミニコンサートをお楽しみいただきます。プロの演奏家との交流を通して、音楽を豊かに表現する術や、それらを実現するためのコミュニケーション能力の向上を促します。 		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>演奏会という特別な空間に慣れ親しみ、本公演に向けてオーケストラを存分に楽しめる状態に整えることを目指して、ワークショップを実施いたします。本公演を積極的に楽しむ姿勢を促すため、オーケストラやクラシック音楽は特別なものであるという意識をなくし、身近なものとして気軽に楽しんでもらえるような様々な工夫を施しながら公演を進めていきます。また、演奏会は演奏者と聴衆との相互作用によって成り立つものであることを伝えながら、講師から聴衆(児童生徒たち)へ歩み寄る姿勢を示し、少しでもステージと客席の心理的な距離を縮められるように内容構成をいたします。具体的な例として、講師たちを愛称で覚えていただいたり、講師が親しみやすいキャラクター(作曲家など)に扮装して公演の案内役をするなどして、講師自身に興味や関心を持ってもらうことから始め、最後まで飽きずにステージに注目していただけるように工夫しています。また、リズムアンサンブルや共演曲の演奏指導など、他者と協力しながら積極的に参加する場面を作ることで、学校生活を共にしている生徒たち同士の仲間意識を深め、コミュニケーション能力の育成や、将来的にも必要となる共生社会への参画意識向上にも繋がっていくことを期待しています。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒たちに親しみを持ってもらうため、出演メンバーの自己紹介では愛称を伝え、公演中は愛称で呼び合いながら進行してゆきます。 ●各学校の状況をヒアリングし、公演時間・演奏曲については各校に合わせた構成でのご提案も可能です。例えば、支援学校での実施については、学校の状況に応じてボディ・パーカッションによるセッションや、動物クイズ(楽器で表現する音がどの動物の声を真似しているかを当てる)等の内容を盛り込むことも可能です。 ●児童生徒の参加人数に応じて、体育館だけでなく、音楽室や多目的室での実施も可能です。 		

本事業への申請理由

【公演団体名 日本センチュリー交響楽団】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>プロ・オーケストラによる演奏を聴くことで音楽活動や音楽鑑賞の楽しさを知り、将来を担う子供たちの文化芸術への関心や理解を深めていくことを目的として、当事業に取り組みます。親しみやすい曲や本格的なオーケストラサウンドを体感できる曲、オーケストラとの共演や楽しい解説など、様々な形で音楽に触れていただける公演内容を検討いたします。当団の巡回を通してオーケストラやクラシック音楽を身近なものとして捉えていただくことで、今後の人生において文化芸術に触れる機会を増やすきっかけとなり、将来の芸術家の育成や、子供たちの芸術鑑賞能力やコミュニケーション能力の向上につなげていきたいと考えています。</p> <p>また、当団の特筆すべき取り組みは以下の通りです。 (各項目の詳細は、別添に記載いたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●楽団員及び事務局員の代表者で構成される「選曲委員会」を設置し、演奏家とスタッフの垣根を超えて、親しみやすい且つ教育効果の高い企画内容を検討します。 ●本公演での教育効果をより高めるため、ワークショップと本公演の関連性を重視しながら内容を構成いたします。 ●オーケストラの魅力や可能性、音楽の楽しさを伝えるため、日本センチュリー交響楽団独自の演目や音楽体験を盛り込み、当事業に取り組みます。 ●自主事業や地域連携事業を通して培ったノウハウを生かし、児童生徒たちとの距離感を縮め、オーケストラや音楽を身近に感じていただける工夫を施します。 ●児童生徒たちが自発的に活動できる場面を取り入れ、最後まで飽きずに楽しんでもらえる進行管理を意識して進めていきます。 <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>【ワークショップについて】</p> <p>ワークショップ実施に向けての準備として、楽団独自の実施マニュアルを作成しています。マニュアル作成時には、制作団体用の実施の手引きだけでなく、学校用の手引きも熟読し、学校が懸念する可能性の高い内容は予め予測しながら準備を進めていきます。また、マニュアル以外にも打合せ用の資料も事前にお送りいたします。資料を基に、お電話等で今後の流れについて綿密にコンタクトを取り合いながら疑問点や不安要素を減らし、打合せの段階からスムーズに進めていけるように努めています。</p> <p>【本公演について】</p> <p>前述の通り、ワークショップ時に行う本公演に関する打合せについては、学校との事前のやり取りを行うことで極力短い時間で効率的に進めることができます。打合せには楽団の制作担当者と舞台担当者(ステージマネージャー)が参加し、学校からのあらゆる質問や確認事項をその場で解決・相談できる体制で臨みます。それぞれの担当者が対面で学校と話をすることで認識違いや齟齬を減らし、学校が安心して公演当日を迎えられるようにできればと考えています。また、楽器搬入経路や団体バスの導線、学校周辺の道路状況なども確認し、舞台設営・撤収は安全且つ効率的に行い、学校に負担をかけずに実施することを心がけています。</p> <p>また、ワークショップ及び本公演における当団の特筆すべき取り組みは、以下の通りです。 (各項目の詳細は、別添に記載いたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンサートホールのような特別な空間を演出できるよう、舞台設営における工夫を施します。 ●ワークショップでの司会進行は講師たちが、本公演での司会進行は指揮者が行います。司会者を別立てするのではなく演奏者の声でお届けすることにより、ステージとの距離感をより縮めたいと考えています。
--	--

リンク先	No.4	【公演団体名	日本センチュリー交響楽団】
<p>項本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫目内容</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢<別添></p> <p>●楽団員及び事務局員の代表者で構成される「選曲委員会」を設置し、演奏家とスタッフの垣根を超えて、親しみやすい且つ教育効果の高い企画内容を検討します。</p> <p>当団には、楽団員と事務局員の代表者で構成される「選曲委員会」が存在しています。当事業のために毎年集まり、演奏家とスタッフという異なる立場で、それぞれの視点からコンサート作りについて協議します。その協議では対立するのではなく、「子供たちにとっての特別なコンサート」、「次代を担う子供たちに音楽を通して何を伝えるべきか」という共通の目標・課題を持って臨みます。そのような姿勢で当事業と向き合うことができるのは、楽団として、子供たちのためのコンサートが重要な位置づけであるという認識があることはもちろん、当団の演奏家達が日常的に音楽を通して子供たちと接する機会があることも理由の一つではないかと考えています(詳しくは、4つ目の項目にて記載しております)。日頃、各々が子供たちと接する中で感じていることや、教育的効果があったと実感した例などを持ち寄り、可能な範囲でそれらが実現できるよう、時間をかけて検討しています。</p> <p>また、学校体育館という、コンサートホールとは音響や温湿度など演奏環境が全く異なる場所での実施となるため、体育館で最大限にオーケストラの魅力を発揮できる作品を意識しながら選曲をしています。何よりも子供たちが最後まで飽きずに楽しんで鑑賞できる内容であることが最重要条件であるため、親しみやすい性格の作品や適切な時間配分で進行していくことなども大切に考えながら検討しています。</p> <p>●本公演での教育効果をより高めるため、ワークショップと本公演の関連性を重視しながら内容を構成いたします。</p> <p>ワークショップでは、オーケストラやコンサートを積極的に楽しむためのポイントを効果的に伝えることを重視しながら、本公演への期待が高まるような内容を構成いたします。ワークショップ講師には学校からヒアリングした生徒たちの特徴や雰囲気などを事前に共有し、各校に合った言葉選びやアプローチと一緒に検討いたします。そして本公演では、ワークショップの様子を進行役である指揮者にもシェアし、MCの内容やテンポ感にも生かしていただきます。</p> <p>またワークショップにて身近な距離感で接した楽団員が、オーケストラという集団の中で活動している姿をご覧いただくことで、学校生活や私生活での子供たち自身の協調性や個性を見つめ直し、両方の重要性やバランスを考えるきっかけとなることを期待しています。</p> <p>●オーケストラの魅力や可能性、音楽の楽しさを伝えるため、日本センチュリー交響楽団独自の演目や音楽体験を盛り込み、当事業に取り組みます。</p> <p>当団の公演でしか体験できない独自の内容を盛り込むことで、より特別感のあるコンサートを演出します。小学校公演で採り上げる手拍子協奏曲「Clip! Beat! Clap!2」は、会場にいる全員を対象とした聴衆参加型コーナーとなっています。王道のクラシック音楽から日本の民謡やラテン音楽まで、計7種類のリズムパターンを手拍子で表現し、世界中の様々なジャンルの音楽に触れていただきます。オーケストラの一員として演奏に加わり、会場全体で一つの音楽を作り上げる楽しさと達成感を味わっていただきたいという思いで取り入れています。また、小学校公演では新たな試みとして、「あなたも舞台上！」という企画でビゼー作曲ファランドールを演奏いたします。オーケストラの演奏エリアに子供たちが入っていき(上限30名程度)、楽器そのものや演奏家たちのテクニックや表情、指揮者とオーケストラのやり取りを間近で観察しながら、客席でのオーケストラの響きとどのような違いがあるのかを体験していただきます。</p> <p>中学校では、当団が1997年に委嘱し初演いたしました、徳山美奈子氏の『大阪素描』より、終曲の「祭」を採り上げます。タイトル通り、当団の拠点である大阪の町の空気や人、伝統的な祭りの響きを描き表した作品です。巡回先との文化交流や、郷土の文化や音楽について考えるきっかけとなることを願って演奏いたします。西洋楽器によって生み出される和の響き、和楽器との協演にも着目しながら、オーケストラの可能性や広がりも感じていただきたいと考えています。</p> <p>●自主事業や地域連携事業を通して培ったノウハウを生かし、児童生徒たちとの距離感を縮め、オーケストラや音楽を身近に感じていただける工夫を施します。</p> <p>No.1「学校等における公演実績」にも記載の通り、当団では様々な企画で子供向けの鑑賞会や音楽交流の場を持っています。そのため、楽団全体の特長として子供たちを受け入れ、寄り添う姿勢が強くなります。例えば「Touch The Orchestra」では、楽器体験などを通して子供たちと直接会話を交わしながら交流したり、演奏者との物理的距離を縮めた鑑賞方法や歌唱共演など、ステージと客席の境界線を超えた交流を積み重ねてきています。また、当団ユースオーケストラには月に数回の頻度で演奏指導を行っており、年に一度、自主公演での合同演奏も実施しています。それらの活動を通して、子供たちの反応を直に受けていることもあり、「子供たちのために」という意識が自然と根付いています。</p>		

リンク先	No.4	【公演団体名 日本センチュリー交響楽団 】
<p>項本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫目内容</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢<別添></p> <p>●児童生徒たちが自発的に活動できる場면을積極的に取り入れ、最後まで飽きずに楽しんでもらえる進行管理を意識して進めていきます。</p> <p>共演という形で児童生徒たちが自発的に活動できる場面を作り、流れにメリハリを付けながら、集中力を切らさずに最後まで楽しんでいただける内容と進行管理を心がけています。前半と後半それぞれ約40分ずつの配分で構成を考えていますが、初めてオーケストラを聴く児童生徒、そもそも音楽があまり身近ではない児童生徒にとって、40分という時間は長く退屈を感じる可能性も少なくありません。当団の公演内容は、演奏を聴く時間、解説を聞く時間、演奏に参加する時間の3つに大きく分けられます。この3つを全体にまんべんなく織り交ぜることで、音楽への興味関心度や学年差に大きく左右されず、自然な形で飽きることなくコンサートを楽しんでいただけます。中でも演奏に参加する時間は、オーケストラに親しみがない児童生徒も、自身のからだを使うことや会場全体で一つの音楽を創り上げるという具体的な課題・目標が出来ることで参加意識が芽生え、他者との協働や特別な空間を共有することの楽しさを体験する場になると考えています。</p>	<p>②効果的かつ円滑に実施するための工夫<別添></p> <p>●コンサートホールのような特別な空間を演出できるよう、舞台設営における工夫を施します。</p> <p>見慣れた体育館を、コンサートホールのような特別な空間に感じていただけるようなセッティングを意識しています。公演ビジュアルにも記載いたしましたが、楽団から箱馬と平台を持ち込み、ステージ下にひな壇を組みます。楽団としては全て平場でオーケストラをセッティングすることも可能ですが、客席からの見栄えの良さと、何より後方の子供たちにも各楽器や演奏者たちが見ていただくため、ひな壇とステージを利用して配置しています。ひな壇上には木管楽器とホルンが並び、体育館備え付けのステージ上にホルンを除く金管楽器とティンパニが並びます。</p> <p>また、中学校公演で吹奏楽部共演を行う場合、吹奏楽部の生徒たちは、自身と同じ楽器を担当する楽団員の隣の席で演奏します。学校生活を共にしている仲間がステージに立つ瞬間を、客席の生徒・教員の皆さんにしっかりと見届けていただきたいという思いで、公演ビジュアルのような配置を採用しています。</p> <p>演奏エリアの両サイドには、黒屏風を設置いたします。簡易の舞台袖を作ることで、少しでも演奏会場の雰囲気を作るとともに、楽器ケースなどの備品を隠し、子供たちの集中を削がないように工夫しています。</p> <p>●ワークショップでの司会進行は講師たちが、本公演での司会進行は指揮者が行います。司会者を別立てするのではなく演奏者の声でお届けすることにより、ステージとの距離感をより縮めたいと考えています。</p> <p>クラシック音楽やコンサートを楽しいと思えなくなる理由には、「長くて退屈」、「難しくて楽しみ方が分からない」といったイメージやハードルの高さを感じてしまうことが挙げられるのではないかと考えます。日頃からオーケストラを聴く習慣があったり、音楽を勉強したことがある子供たちは、シンプルに演奏を聴くだけでも多くの感動や魅力を受け取ることができますが、初めてオーケストラに触れる子供たちは一方的に音を届けられても受け取り方が分からず、距離が遠くなってしまふのだと想像します。音楽の受け取り方が分からない子供たちにとって手助けの一つとなるのは、曲の紹介や聴きどころを言葉で受け取ることができるMCです。当団の進行台本は、一人でも多くの子供たちに分かりやすく伝わり、楽しいと感じていただけるように、曲の印象や聴いた後の気持ちをイメージしやすい言葉選びを心がけ、曲ごとの注目すべきポイントや、どの楽器が活躍するかなどの聴きどころ・見どころをガイドする役割を意識して作成しています。それらのガイドをステージ上の演奏者が行うことによって、リアルな声として、説得力のある言葉として子供たちに届けることができ、作曲家や演奏者たちの思いを音楽から受け取ろうとする姿勢が生まれやすくなるのではないかと考えます。</p> <p>司会進行以外の場面では、本公演においては「Clip! Beat! Clap!2」で手拍子ナビゲーターを努める打楽器奏者や、吹奏楽共演後に生徒たちへのコメントを送る代表楽団員が子供たちの前でマイクを持ちます。この場面では、子供たちに届ける言葉であるということを意識しながら、大切に、丁寧に進めていきます。</p> <p>また、公演中の休憩時間では、子供たちが演奏者たちに声をかけに行き、音楽に限らず様々な話題でコミュニケーションを取っている場面を多く見かけます。休憩後の子供たちは、前半より身体もほぐれ、会話が弾んだ子供たちはステージに向ける目線が全く変わります。日頃関わることのない「ステージで活躍する人」の声を聞くことも子供たちにとっては特別な体験となり、今後の音楽への関心を深めるきっかけとなりえるのではないかと考えています。</p>